

熱中症は予防できる！！

～「問われる危機管理能力」～

いつでも、誰でも対応する力

例年にない気温上昇に全国各地から「熱中症」の報告が入っています。先日の台風の接近が示す様に「いつも通り」では対応が難しくなっています。夏本番が近づく前に、先手必勝でいきましょう。

- 1 高湿度・急な温度上昇等には要注意
- 2 肥満傾向の人、体力の低い人、暑さに慣れていない人、体調の悪い人は要注意
- 3 ランニング、ダッシュの繰り返しには気を付けて

熱中症が起こりやすい条件

学校における熱中症予防のポイント

保学第20号（H27.5.11）参照のこと

- 直射日光下での長時間の運動・スポーツ・作業を避ける。
- 屋外での運動・スポーツ・作業は帽子を着用してできるだけ薄着で行う。
- 屋内外に関わらずこまめに水分を補給する（0.2%食塩水またはスポーツドリンク等）
（適宜休憩をとること、終了後の水分補給も忘れない）
- 児童生徒の運動能力やその日の体調、疲労状態などを常に観察し、異状が見られたら速やかに処置をする。
- 心身の不調を感じたら必ず申し出るように習慣付ける。

職員会議・朝礼・終礼等、様々な機会を捉えて意図的な確認しましょう

熱中症の対応

1. 患者の状況を把握（意識 応答 痙攣 体温 顔色等）
2. 職員間での連絡と救急車要請（生徒から先生へ 先生から先生へ 学校から救急へ）
3. 応急処置や搬送（涼しい場所へ移動 脱衣と冷却 医療機関への搬送等）
4. 水分・塩分の摂取（意識障害がある場合には経口水分は禁物です）

「危機管理マニュアル」等の準備はできていてもいざ事案が発生するときに学校の対応力と姿勢が問われます。また、日常から児童生徒の訴えが届く双方向のコミュニケーションが重要です。児童生徒や教職員の安全管理に関わる内容について万全を尽くしてください。